

# ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2025年7月分)

2025年7月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

## 目次(以下は主なトピックを抜粋)

### 1. 国内情勢

#### (1) 国家レベル

- [スレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼行事の開催\(11日\)](#)
- [BH機関資金調達法の改正に関するボン・パワー行使\(17日\)](#)

#### (2) エンティティ、特別区

##### ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

- [サラエボ・カントンの公共交通機関の運賃の2.20KMへの値上げ\(1日\)](#)
- [アブディッチ・サラエボ新市長の就任\(16日\)](#)

##### イ スルプスカ共和国(RS)

- [RS国民議会における警察予備隊の創設に関する法改正\(3日\)](#)
- [ドディックRS大統領に対する逮捕状取り下げ及び身柄拘束の解除\(4日\)](#)
- [BH憲法裁判所におけるRS選挙管理委員の公募に対する決定不履行の認定\(10日\)](#)

### 2. 外政

#### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

- [国連におけるスレブレニツァ・ジェノサイド公式追悼式典\(8日\)](#)
- [EUのBHに対する西バルカン成長計画の資金削減\(17日\)](#)

#### (2) 二国間関係

- [ベチロビッチ大統領評議会メンバーとアダッド・仏欧州・外務大臣の会談\(25日\)](#)

#### (3) 日・BH関係

- [相木大使のスレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼式典出席\(11日\)](#)
- [相木大使のシュピリッチ上院議長表敬\(16日\)](#)

### 3. 経済

#### (1) 経済指標(出典: BH統計局)

#### (2) 経済政策・公共事業

- [BH連邦のロンドン証券取引所でのユーロ債借入れ開始\(11日\)](#)

#### (3) 民間セクター

- [アルジャジーラ・バルカンの閉鎖決定\(14日\)](#)

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

## 1. 国内情勢

### (1) 国家レベル

#### ●BH閣僚評議会における欧州人権裁判所判決履行のための改訂行動計画の採択(3日)

3日、BH閣僚評議会は、欧州人権裁判所の「ゾルニッチ」、「セイディッチ=フィンチ」、「ピラフ」、「プダリッチ」各判決履行のための改訂行動計画を採択し、BH法務省に対してBH憲法及び選挙法の改正草案を準備する作業部会の設置案の15日以内の提出を義務づける旨を決定した。

#### ●スレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼行事の開催(11日)

11日、スレブレニツァ市郊外のポトチャリにおいて、スレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼式典が開催された。同式典は、スレブレニツァ・メモリアル・センター(SMC)の主催により毎年7月11日に開催され、式典後には過去一年のうちに身元が特定された遺骨の埋葬が行われる。本年は、30年の節目であることから、例年よりも多くのハイレベルの出席があった。BH国内からは、ベチロビッチ大統領評議会ボシュニャク系メンバー、コナコビッチBH外務大臣、国外からはコスタ欧州理事会議長、コス欧州委員(拡大担当)、プレニコビッチ・クロアチア首相及びビルツェムサル・スロベニア大統領、フェルドカンプ・オランダ外務大臣らが出席した。

#### ●チュルムSIPA長官の辞任撤回(14日)

14日、チュルムBH国家捜査・保護庁(SIPA)長官は、3月の辞任表明を撤回し、復職した。同長官は、3月にドディックRS大統領が第1審判決を受け、SIPA内のすべてのセルビア系職員に対し、辞職を呼びかけたことに伴い、辞任を表明し、事実上RS内務省に移っていたが、4日に同大統領への逮捕状が取り下

げられたことがきっかけとなり、復職したとする見方が強い。

#### ●コムシッチBH大統領評議会議長の就任(16日)

16日、コムシッチ大統領評議会クロアチア系メンバーが、ツビヤノビッチ同評議会セルビア系メンバーに代わり、今後8ヶ月の任期で同評議会議長に就任した。

#### ●BH機関資金調達法の改正に関するボン・パワー行使(17日)

17日、シュミット上級代表は、2026年BH総選挙における新技術導入のための予算及びViaduct仲裁判断を履行するための債務支払いを確保するため、ボン・パワーを行使し、BH機関資金調達法を改正する上級代表決定を行った。

### (2) エンティティ、特別区

#### ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

#### ●サラエボ・カントンの公共交通機関の運賃の2.20KMへの値上げ(1日)

1日、サラエボ・カントン政府による公共交通機関の新料金が採択され、新料金は2.50KMとなり、同政府から0.30KMが補助として賄われるため、利用者は一回のチケットにつき、2.20KMを支払わなければならない。しかし、年間チケットについては、新価格が550KMとなり、以前の価格から216KM安くなり、利用しやすくなった。また、学期中の児童、学生及び一部の年金生活者は依然として無料で公共交通機関を利用することができる。

#### ●アブディッチ・サラエボ新市長の就任(16日)

16日、サミール・アブディッチ氏(NiP)がサラエボ新市長として就任した。サラエボ市議会は、賛成票16、反対票7、棄権票7で新市長の任命を完了した。同氏はバスケットボールクラブ「ボスナ(Bosna)」に所属していた元選手

として知られており、スペインやトルコでもプレー経験があることから多言語話者でもあり、引退後、サラエボ・カントン議会の文化・スポーツ大臣等を務めた経歴がある。

## イ スルプスカ共和国(RS)

### ●RS国民議会における警察予備隊の創設に関する法改正(3日)

3日、RS国民議会は、6月24日にRS政府により承認された警察予備隊(Auxiliary Police Force)の創設を可能にするRS警察法改正案を緊急手続き(urgent procedure)により採択した。RS政府は、自然及び人的要因によって引き起こされた人道的危機に対して組織的に対処するための形式的・法的要件を整えるという必要性を主張したが、シュミット上級代表、当地EU代表部、当地OSCE代表部、ニクシッチBH連邦首相らは、同予備隊の創設は不要かつ挑発的である点を指摘し、不安定化をもたらす同法改正の停止を求めた。

### ●ドディックRS大統領に対する逮捕状取り下げ及び身柄拘束の解除(4日)

4日、BH裁判所は、ドディックRS大統領がBH検察庁への出頭に応じた事実及び同検察庁の要請を受けて、同大統領に対する逮捕状の取り下げ及び身柄拘束の解除を決定し、同時にBH国家機関への定期的な出頭を義務づけた。

### ●ステバンディッチRS国民議会議長及びビシユコビッチRS首相の身柄拘束の解除(9日)

9日、BH裁判所はステバンディッチRS国民議会議長及びビシユコビッチRS首相に対し、7月4日のドディックRS大統領に対する措置と同様の理由で、逮捕状の取り下げ及び身柄拘束の解除を決定し、定期的な出頭を義務づけた。

### ●BH憲法裁判所におけるRS選挙管理委員の公募の無効の認定(10日)

10日、BH憲法裁判所は、2024年9月のRS選挙法を当初から無効とした決定を踏まえ、RS国民議会選挙管理委員任命委員会及びタミンジャ同委員長による独自の委員の公募開始を先の決定に反する行為として認め、無効とした。ズビズディッチBH下院議長は、RS当局による並行する選挙機関創設は、BH憲法秩序に対する深刻な打撃を与えようとする試みであり、BH全土で選挙を実施するための唯一の権限を有する機関は、BH中央選挙管理委員会(CEC)であると述べた。

### ●スレブレニツァ・ブラトナツのセルビア系犠牲者追悼式典(12日)

12日、1992年の聖ペテロの日に69人のセルビア系民間人及び兵士が殺害された事件の33周年を記念し、殺害されたセルビア系の記念碑と記念骨蔵堂で追悼式典が行われ、ブチッチ・スレブレニツァ市長らによる献花が行われた。

### ●ミリチェビッチ氏のSDS党首の辞任(13日)

13日、ミリチェビッチ氏は、セルビア民主党(SDS)党首の辞表を提出した。SDS新党首が選出されるまでの間、ラドゥロビッチ・モドリチャ市長が暫定的な党首を務める。

## 2. 外政

### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

#### ●西バルカン成長計画に関するスコピエ・リーダーズ・サミットの開催(1日)

1日、コス欧州委員(拡大担当)及び西バルカンの6カ国(BH、アルバニア、コソボ、モンテネグロ、北マケドニア、セルビア)の首脳(BHからはクリシュトBH閣僚評議会議長が参加)

が、スコピエに参集し、同計画の実施に伴う改革アジェンダの迅速で完全な履行に向けた議論が交わされ、共同ステートメント「安定、結束、将来(Stability, Unity, Future)」が発表された。同ステートメントでは、同計画の実施に向けた「改革・成長ファシリティ(Reform and Growth Facility)」の立ち上げを、EU加盟を準備するものとして歓迎した上で、地域経済協力、貿易、エネルギー転換、デジタルインフラ等の優先分野をEU基準に近づけ、EU単一市場及びSEPA圏(単一ユーロ決済圏)等への統合に向けた取組みを加速していくことを確認した。

#### ●国連におけるスレブレニツァ・ジェノサイド公式追悼式典(8日)

8日、国連グローバル・コミュニケーション局、ジェノサイド防止特別顧問室、BH国連常駐代表部の共催により、外交団、国際機関の代表、ジェノサイドの生存者及び遺族が集まり、初となるスレブレニツァ・ジェノサイド公式追悼式典が実施された。グテーレス国連事務総長は、政策、プロパガンダ及び国際社会の無関心の結果、我々はジェノサイドを防止できなかったと述べた上で、現在のヘイト発言、昨今増加するジェノサイドの否定及び戦犯礼賛に対する懸念を表明した。

#### ●EU議会におけるBHに関する報告書の採択(9日)

9日、EU議会においてBH情勢に関する報告書が採択され、ドディックRS大統領とその指導部が推進する分離主義的な政策を強く非難し、BHの安定と欧州の安全保障を脅かす不安定化勢力に対する制裁措置を含む断固たる行動をEUに求めることを決定した。同報告書では、ロシアと中国をはじめとする外国勢力による悪意ある干渉や偽情報キャンペーンへの懸念も強調された。

#### ●EUのBHに対する西バルカン成長計画の資金削減(17日)

17日、欧州委員会は、コス欧州委員(拡大担当)からクリシュトBH閣僚評議会議長に対する書簡を以て、BHが定められた期限に改革アジェンダを提出しなかったことを理由に、西バルカン成長計画に基づきBHに割り当てられた資金の10%を削減することを通知した。さらに、他5カ国は改革アジェンダを提出し、合意された日程に従った改革を行っていることを挙げ、受益国すべてに対し公平であるため、今後も段階的に資金を削減して行かざるを得ないとし、本年9月30日までに提出されない場合、さらに資金の10%を削減するとした。

#### (2)二国間関係

#### ●コナビッチBH外務大臣とハサニ・アルバニア外務大臣の会談(10日)

10日、コナビッチBH外務大臣は、スレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼式典の参加に向けBHを訪れていたハサニ・アルバニア外務大臣と会談し、二国間関係の強化に向け、経済的協力及びインフラ上の結びつきを強調しながら、西バルカン近隣諸国との友好関係の維持に努めていく旨を確認した。

#### ●ベチロビッチ大統領評議会ボシュニャクメンバーとアダッド・仏欧州・外務大臣の会談(25日)

25日、ベチロビッチ大統領評議会ボシュニャクメンバーは、フランス・パリを訪問し、アダッド欧州・外務大臣と会談した。同大統領評議会メンバーは、BH憲法裁判所とBH上級代表事務所の弱体化は許されるべきではなく、RS指導部は平和と安全を脅かしている旨を説明。アダッド仏欧州・外相は、デイトン・パリ和平合意の証人として、フランスはBHの独立、主権

及び領土保全を強く支持すると述べ、RSエンティティ指導部のいかなる分離主義的行動にも断固として反対する旨を伝えた。

●ベチロビッチ大統領評議会ボシュニャクメンバーとコスキ米臨代大使の会談(31日)

31日、ベチロビッチ大統領評議会ボシュニャクメンバーは、コスキ当地米臨時代理大使と会談した。同メンバーは、ワシントン、デイトン及びニューヨークを訪問し、米国高官らと一連の重要な会談を実施したことを振り返りながら、BHの憲法秩序及びデイトン和平合意の維持のために、強力かつ一貫した国際社会の支援が必要であると指摘した一方、コスキ臨時代理大使は、米国がBHの独立、主権及び領土保全、そして多民族国家という特徴を引き続き支持していくと述べ、米国の国益はBHと西バルカン地域の安定であり、それこそ強力な経済発展の前提条件であると指摘した。

(3)日・BH関係

●相木大使のスレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼式典出席(11日)

7月11日、相木大使は、日本政府を代表してスレブレニツァ・ジェノサイド30年追悼式典に参加し、犠牲者を追悼した。国際社会の一員として、スレブレニツァの教訓を次世代に伝え、このような悲劇を二度と繰り返さないために、同志国と共に取り組むことの重要性を改めて確認した。

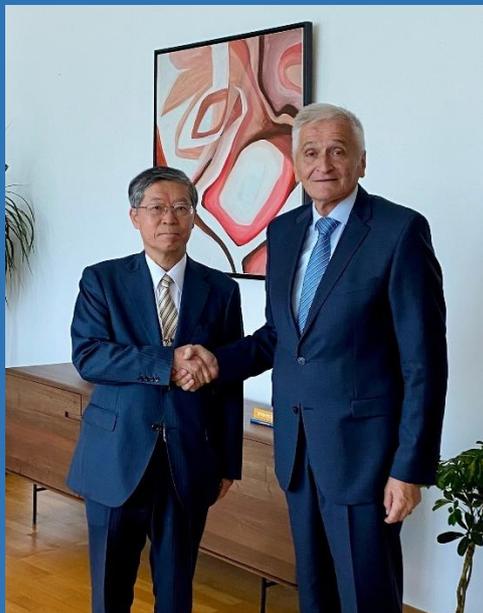
同式典にあたり、相木大使は、エルメデイン・コナコビッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ外務大臣に対し、岩屋外務大臣からの、犠牲者と御遺族、ボスニア・ヘルツェゴビナ国民への哀悼と連帯を表する書簡を手交した。



(写真: 同追悼式典及びコナコビッチ BH 外務大臣に対する書簡手交の様子)

●相木大使のシュピリッチ上院議長表敬  
(16日)

7月16日、相木大使は、シュピリッチ上院議長に表敬を行った。両者は、両国の良好な二国間関係を確認し、経済や文化、観光等の分野において更に関係を発展させるべく協力していくことで一致した。ボスニア・ヘルツェゴビナの政治的課題や国際社会の役割につき意見交換を行った。



(写真:表敬訪問の様子)

### 3. 経済

#### (1)経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2025年6月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比2.0%プラス。前年同月比2.6%マイナス。

●雇用/失業率

2025年5月の失業者登録数は31万5494人(うち女性18万7728人)で、前月比では1.4%マイナス、前年同月比で2.8%マイナス。

●平均給与

2025年5月の平均給与(手取り)は1,574 KMで、前月比で名目賃金は1.9%プラス、実質賃金は1.7%プラス。前年同月比で名目賃金は13.4%プラス、実質賃金は9.3%プラス。

●消費者物価指数

2025年6月の消費者物価指数は前月比0.3%プラス。また、前年同月比で平均4.6%プラス。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.1%のマイナス。

●貿易収支

2025年6月時点のBHからの累計輸出総額は84.32億KM(前年同期比5.8%増)、BHへの累計輸入総額は146.82億KM(前年同期比4.5%増)。累計貿易収支は62.51億KMの赤字。

#### (2)経済政策・公共事業

●BH連邦のロンドン証券取引所でのユーロ債借入れ開始(11日)

11日、BH連邦政府(信用格付け B3/B+)は、ロンドン証券取引所でユーロ債を発行し、2030年7月に満期を迎える債券の初期価格を6%の利回りとし、3億~3.5億ユーロの借入れを行い、国際資本市場への参入準備を進めている。IMFからの借入れは遙かに低コストである一方で改革義務が必要とされており、積極的な財政政策で知られる現政権では同条件への適合が困難であることから、より高コストなユーロ債の借入れを選択した。ニクシッチ BH 連邦首相は、IMF 代表団との会談後、同機関とのさらなる融資合意は必要ないと述べた。

### (3)民間セクター

#### ●アルジャジーラ・バルカンの閉鎖決定(14日)

14日、国際メディア・アルジャジーラ・バルカン(Aljazeera Balkan)の放送が同月31日を以て終了することが決定した。14年間に及び、バルカン地域における多民族的なジャーナリズムを追求してきた同チャンネルは、12日の正午過ぎを以て、司会のコナコビッチ氏による別れの言葉と共に、長年信頼を寄せてきた視聴者に対して感謝の意を伝え、アルジャジーラ・ニュースの最終放送が終了した。